

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3271100582		
法人名	社会福祉法人 草雲会		
事業所名	グループホームあしたか		
所在地	島根県松江市東出雲町出雲郷490番地		
自己評価作成日	平成29年10月5日	評価結果市町村受理日	平成29年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2017\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd](http://index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成29年10月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

国道9号線から阿太加夜神社の参道に入った近くにあり、葦高の地名から「あしたか」と名付けた和風平屋の古民家風の建物です。1ユニットの少人数で、顔なじみの関係が出来やすく、それぞれがその人らしく暮らせるよう支援しています。共同生活の良さを実感しながら、暮らしの中で、その人が出来る事、洗濯物干し、たたみ、食器洗い、掃除などしていただいています。それぞれの居室は自分で出来る方は自分で整理、整頓、掃除していただいています。入浴は檜風呂で毎日入れるような体制にしています。隣接する法人の特養、デイサービスと連携し、行事などの交流を図り、楽しみや生きがい作りを支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

毎年、理念を振り返り確認し実践している。毎日ミーティングで接遇について読み合わせを行い、日々の支援を自己、他者からの評価で振り返っている。常に利用者の立場に立って支援することを意識し、利用者にとってどのような支援がいいのかを考えて対応している。利用者のその時その時の思いや言葉を大切に受け止め、利用者が持っている力を発揮してその人らしく笑顔で暮らせるよう、関わりの仕方を工夫して支援している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「ワンラブワンハート」をベースに、基本方針「主役はご利用者様」あしたか理念「一人ひとりの思いをたいせつにし安心して暮らしを目指します」を掲げ、実践できるように努めている。	法人の理念に基づいて方針を掲げ、年度初めに職員間で話し合い確認し実践に繋げている。常に理念を意識した支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する法人施設・事業所と連携し、クラブ活動行事に参加、交流、地域の公民館や小学校の行事、地域のイベントにも参加し、地域の子供達、地域の方々と交流しているが、日常的と言えるほどではない。	地域の交流会や祭りに出かけるなどしている。法人施設での生け花や絵画、書道などクラブ活動でボランティアと交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記の行事や運営推進会議などの関わりを中心に、ご家族や地域の方に認知症の正しい理解をしていただけるよう努めている。又法人主催で、認知症の研修会を開催し、地域に認知症の理解を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の案内をご家族全員に送付し参加を呼びかけ、現状報告などにより、グループホームの実際を理解していただくようにしている。その中で意見や要望等を職員に繋ぎ、ケアに活かしている。	事業所の取り組みや利用者の状況を伝え意見交換し支援に繋げている。家族から利用者の出来ることの継続を、との意見を貰い支援に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとは運営推進会議や東出雲地域ケア多職種ネットワークやらこい東出雲等で、連携、連絡を取り、協力関係を築いている。	運営推進会議で活動状況を伝え情報交換をしたり、「やらこい東出雲」等で連絡を取り合い協力して取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人、事業所研修を通して、身体拘束について、常に学び、実際のケアが身体拘束にならないか常に振り返り、職員間で話し合いながらケアに取り組んでいる。	研修を通して身体拘束をしない支援について理解し取り組んでいる。禁止や指示語についても注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人、事業所、外部研修に参加する機会を持ち、虐待について学び、きちんと理解し、ケアや暮らしの中で虐待が無いように、見過ごされないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人、事業所研修や外部研修に参加し、情報共有し、ケアに活かすよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、丁寧に説明し、質問等にきちんと対応し、理解、納得をいただき、署名、捺印をいただく。改定時にはその内容を書面にて提示し、口頭でも説明、改めて、署名、捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や受診、面会時に現状報告したり、ご家族の要望、意見をお聞きし、スタッフ会でその内容を伝え、検討し改善している。	運営推進会議や面会時に意見を聞いている。利用者の状況に合わせた支援が出来るように家族と相談しながら取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内サービス担当者会やスタッフ会で、提案や意見を聞く機会を持ち、検討し取り入れるようにし、必要に応じて改善するようにしている。	日頃から職員と何でも言い合える関係があり提案を改善に繋げている。職員は気付いた事をメモしておき、話し合い情報を共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	幹部会議、運営会議等で職員の状況等報告し、就業規則の確認、改定に努めている。改定等あった場合、その周知徹底している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常の関わりの中で、職員個々のケアの現状を把握し、その力量を勘案し、それぞれ適切な研修の機会をつくるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の受け入れを積極的に行ったり、グループホーム部会の研修、やらこい東出雲の研修等に参加させて、意見交換や交流ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規のご利用者には、出来る限り細やかに声掛けをし、スタッフ間で情報を共有し不安のないよう対応する。ご本人の思いを受け止めながら、関係作りをするようにする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規利用者のご家族に対しては、細やかに話をさせていただき、入所に当たっての不安や要望、意見を丁寧に伺っている何かあればすぐに連絡し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申込みの段階で、状況確認し、空きが出来た時に現状の確認をしている。ご本人、ご家族の思いと現在のサービスの利用状況等により判断し、今後の方向性も確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に暮らしていく」というグループホームの原点を確認しながら、本人の出来る事、出来にくくなった事の見極めをしながら、寄り添うケアに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人からの要望等出来るだけ家族に繋げ、何かあればすぐに連絡し、関係性が途切れないようにし、ご家族と共に関わり、ご家族と相談しながら最善の方法を共に探り、支援していくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れないよう、以前通っておられたデイサービスとの交流をしたり、地域のイベントに参加したり、又、住んでおられた地域に出掛け、馴染みの方と触れ合う機会を持つようになっている。	地域のイベントに出かけたり、受診時に知人と出会うなどなじみの関係が途切れないよう努めている。家族の協力で外食や外泊し、利用者が安心して暮らせるよう共に支え合う関係を築いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新規のご利用者の席について、情報を元に決め、様子を見ながら、上手く馴染めるよう適時席を替えてみたり、トラブルがあれば、早めに介入し、より良い関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も機会をとらえご家族にその後の様子を伺ったり、面会に行き関係の継続に努め、今後の相談等にも応じていくことを伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	改めて聞くのではなく、日頃の関わりの中で、自然な形での会話の中から、一人ひとりの思いを探り、職員間で情報を流して実現できるようにしている。	居室や入浴介助時一対一でしっかりと聞くことに努め、利用者の思いをくみ取るよう工夫している。本人の出来ることを大切に、見つけ出し支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等、家族、ケアマネより情報提供を受け、ご本人との会話の中から聞き取った内容等確認したことを記録し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中でご本人の力量を確認しながら、出来る範囲で、無理のない程度の役割や手伝いが出来るように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のスタッフ会で介護計画、ケアの見直しを行い、検討すべきことは全員で検討、実施し、ご本人、ご家族に了解を得ている。	利用者、家族から情報を収集し職員間で話し合い計画を作成している。日々の変化を記録し計画に沿った支援となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にご本人の言葉を記入し、スタッフも必ず記録を見て、情報の共有をし、申し送り等で、タイムリーに検討し、実践、介護計画に繋げるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人とご家族との関係性も様々で、ニーズに対して最善と思える支援を当法人内の各職種の協力を得て行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの関わりによるお茶会、生花、絵画、書道クラブなどに参加していただき、地域の方との触れ合いもあり、楽しい時間となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時のかかりつけ医はそのまま継続しており、原則定期の受診はご家族にお願いしている。受診時にはその都度詳細な情報を提供し、必要時には受診介助も行い、必要な医療が確保できるように支援している。	希望のかかりつけ医に家族が同行し継続受診し、必要時には受診介助をしている。利用者の状況を事前にかかりつけ医に伝え、家族から報告を受けて情報を共有し支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、事業所内には看護師はいない。気になる事があれば、隣接の法人の看護職に相談し、状況判断等アドバイスをもらうことも時にはあるが、概ね主治医に相談し、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに日頃の状況を情報提供し、入院生活が少しでも問題なく過ごせるように、又早期の退院を目指してご家族と受け入れについて相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に将来的な方向性を伺い、重度化した時のことを確認している。必要により、特養への申込み等提案、アドバイスをさせていただいている。	入居時に事業所の方針を伝え、状況の変化に対して家族の意向を確認している。法人施設と連携してその都度検討し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内での救急法の研修会に参加し、AEDの操作方法も習得しているが、当施設ではAEDは導入していない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の消防避難訓練は年2回実施している。地域の協力体制は隣接の法人施設に依存しており、独自の体制は確立していない。	日中、夜間、地震想定で訓練し法人施設と連携して取り組んでいる。災害時には、居室の入り口に切り絵の目印で利用者の安否を確認する工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護や接遇の研修を通して、人権尊重やプライバシーの確保を学んでいる。毎日、接遇の読み合わせをして言葉かけや対応について日々意識しながら業務にあたっている。	日々接遇について話し合い、言葉かけや対応を意識して利用者を尊重した支援をしている。職員は利用者の立場に立つ支援の学習を続けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で、ご本人の意向を確認したり、選択できるよう努めている。普段から会話の中でご本人の思いをくみとるような関わりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望を出来るだけ優先するようにしているが、状況によりすぐ対応できないこともあり、そのような時はきちんと説明し、納得していただくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれのこだわりを大切に、着替える衣類の選択をしていただいているが、季節や気温などに合わせ、アドバイスし、納得していただくようお話ししながら対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の会話の中で、食べたい物を聞き、献立に取り入れている。調理に参加できる方が少なくなったが、盛り付け、食器洗い等は出来る方にはしていただいている。	利用者の食べたい物、好きな物を季節感を取り入れながら手作りで提供している。流しソーメンなど法人施設の利用者と一緒に楽しめる場面を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方に対して、カロリー制限をしたり、嚥下機能の低下した方に対して、ペースト食、とろみをつけて安全に食べていただくよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けをし、夕食後は全員側で見守り、確認し、必要な方は介助し、入れ歯磨き等行っている。自分で出来ない方はうがいの後口の中の残渣を拭き取っている。義歯の消毒は定期的実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンをスタッフ間で共有し、ご本人の状況により少しでも自立の方向に行くようにしている。紙パンツから布パンツに改善したケースもある。	利用者の排泄パターンを把握して自立に向けた支援をしている。夜間も医師に相談し利用者の状況に合わせた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況をチェックし、便秘が続かない様主治医と相談し適時下剤等服用していただいている。又、食べ物にも気をつけて、便秘に良いヨーグルトなどを取り入れるようにした。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則、毎日入浴ができる状況にしており、ご本人の要望も受け入れ、適切な入浴時間と回数を確保している。デイサービス利用から入所に繋がった利用者が多く、夜間の入浴の希望はなく昼間に入って頂いている。	利用者の希望の回数や時間に対応出来るように支援し、歌ったり外出の希望を聞くなどゆったりと関わっている。手すりや踏み台で安楽に湯船に入れるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めず、テレビを見たり、本を読んだりそれぞれのご利用者に合わせて自由に過ごして頂いている。昼食後の午睡も眠らずにホールで過ごされる方もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録のファイルを作り、受診後、薬の変更、次回の受診日等記録をし、情報を共有している。個々のフェイスシートも変更等あれば速やかに修正している。薬による特変等ないか観察し、あれば主治医に速やかに相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者やご家族からの話しや日々の関わりの中で今までの楽しみや得意だった「こと」など聞きだし、その情報を共有し、役割やアクティビティなどの生かせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ要望に沿うようにしているが、天候や職員体制により出来ない事もあり、出来なかった場合は出来るだけ早く実現するようにしている。	ドライブや買い物、季節に合わせた花見や誕生日外出など計画し、利用者の希望に沿うよう支援している。近所の神社に出かけ樹木の匂いを嗅いだり季節を感じ楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理について、原則家族の判断で財布を持たれている方もあり、身近な日用品等買物に行けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には、何時でもご家族や知人に電話をかけていただいている。帰宅願望の強い方は夜になると家にかけたくなるので、ご家族にも了解していただき、いつでもご家族の声が聞こえるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有場所については清潔感のある環境整備を心がけ、いつでも自由に誰でも使える雰囲気にして花や作品を飾って、季節感が感じられる工夫をしている。	花や利用者の作品を飾り、自由に過ごせるように椅子や畳のスペースを設けている。快適に過ごせるよう清潔で安全な環境作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの席について、ほぼ固定化しているが、折り合いが上手くいかどうか見極めながら、必要な場合変更している。それぞれが快適に過ごしていただけるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みの物品を持ってきていただき、ご本人が安心できるように居場所作りをご家族と一緒に検討しながら行っている。	利用者、家族と相談しながら使い慣れた家具やテレビ、好みの洋服を持ち込み、その人らしく暮らせる環境をつくっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来ることを大切に関わり、出来るようなことにも挑戦していただくようにスタッフ間で話し合い、情報共有し、実現に向けて支援している。		